

# ■将来都市構造の見直しについて

■将来都市構造：将来都市像を空間的・概念的に表したもの。  
将来都市像や都市づくりの目標を踏まえて、市全体の骨格（土地の使い方や拠点など）を描いたもの。

## 大規模プロジェクトによる都市構造の変化

新大村駅周辺整備構想

車両基地・新駅計画

大村市民病院建替事業

市立図書館・歴史資料館整備事業

資料3

### 〔将来都市構造の基本概念〕

#### 〔現計画〕

本計画では、「将来都市像」「都市づくりの目標」を踏まえ、『環境に配慮したコンパクトな都市づくり』を都市構造の基本的な考えとして、以下の観点より進めます。

- 大村市の空間構成の背景となる、海～まち～里山～山の特性を生かします。
- 都市軸を骨格として、主要な拠点を結び、まとまりある市街地形成を進めます。
- 都市機能の集積を促進し地域の魅力や個性を最大限に発揮する拠点の形成を進めます。また、拠点を中心として利便性の高い生活圏を創出します。
- 公共交通体系および道路網により拠点を結び、各生活圏が一体となった、コンパクトな都市づくりを推進します。

- 「環境（低炭素まちづくり等）」に加えて、「都市の利便性・活力の維持」や「効率的な都市づくり」、「災害リスクの低減」などの多様な観点から「コンパクトな都市づくり」の必要性が増大
- 立地適正化計画に基づく「コンパクト・プラス・ネットワーク」のまちづくり（都市機能誘導区域/居住誘導区域等）の推進
- 市民生活、環境、災害、都市経営コストなどの様々な面から都市の「持続性」を高めていくことの重要性が増大 等

#### 〔見直し案〕

「将来都市像」「都市づくりの目標」を踏まえ、『環境に配慮した持続可能でコンパクトプラスネットワークのまちづくり』を都市構造の基本的な考え方として、以下の観点より進めます。

- 大村市の空間構成の背景となる、海～まち～山の特性を活かします。
- 都市骨格軸で、主要な拠点を結び、まとまりのある市街地形成を進めます。
- 都市機能の集積を促進し、市民の生活を支えるとともに、地域の魅力や個性を最大限発揮する拠点の形成を進めます。また、拠点を中心として利便性・快適性が高く、効率的で安全・安心な居住環境を創出します。
- 公共交通体系および道路網により拠点を結び、持続可能でコンパクトなまちづくりを推進します。

### 〔構成要素〕

面的要素	<b>ゾーン</b>	○機能毎に区分した土地のまとまり
線的要素	<b>軸</b>	○都市を形成する骨格 ○各拠点の連携・交流を図る動線
点的要素	<b>拠点</b>	○都市活動の中心的な場で、地区特性に応じて各種機能の集積を図る地区 ○交通、産業、自然など、一つの機能が特化・集約した地区

### 〔都市計画マスタープラン〕

ゾーン	<b>都市ゾーン</b>	○都市ゾーン都市活動、都市生活の中心となるゾーン
	<b>田園住宅ゾーン</b>	○みどり豊かな田園環境の形成を図るとともに、里山、農地など、自然環境と調和した住宅形成を図るゾーン
	<b>森林ゾーン</b>	○主に森林の保全を図るゾーン
	<b>海辺ゾーン</b>	○大村湾に面した海辺のゾーン
軸	<b>都市軸</b>	○都市を形成する骨格となる軸 ○大村市の中心的な拠点を結び、都市の一体性を確保する役割 ○充実した高速交通体系を結び、その機能を高める役割
	<b>都市中心拠点</b>	○住む人、訪れる人の賑わいや交流の創出、文化の発信など大村市の中心地としての役割 ○産業・業務、行政、医療、教育機能など、多様なサービスを提供する都市生活の中心的な役割 ※JR大村駅周辺、幸町周辺、市役所周辺
拠点	<b>地域生活拠点</b>	○地域の身近な生活支援、サービスを提供する役割 ※鉄道駅・出張所周辺
	<b>公益拠点</b>	○利便性の高い都市生活を支える医療、公益機能を提供する役割 ※市民病院周辺、長崎医療センター周辺
	<b>自然・レクリエーション拠点</b>	○市民および訪れる人の健康増進やスポーツ振興などを提供する役割 ○自然とのふれあいや都市のうるおいを生み出す役割 ※大村公園、森園公園、総合運動公園等
	<b>交通結節拠点</b>	○ひと、もの、情報の交流や連携を高める役割 ○国際交流、都市間交流を促進し、都市活力を創出する役割 ※空港、主要鉄道駅、高速道路IC、港湾
	<b>産業拠点</b>	○大村市の雇用、産業機能を創出する役割 ○県央の産業拠点として、産官学の連携を促進し、ハイテク産業の集積や研究機関の誘致を図るなど、産業の振興を牽引する役割 ※オフィスパーク大村、大村ハイテクパーク、第2大村ハイテクパーク
	<b>生活利便型拠点</b>	

### 〔立地適正化計画での見直し〕

ゾーン	<b>都市軸</b>	○都市計画マスタープランで位置づけられた軸に加えて、「都市拠点」「地域拠点」と「地区拠点」を結び軸をあわせて『都市軸』として整理（位置づけには差異なし）						
	<b>日常生活における活動軸</b>	○「コミュニティ拠点」と「地区拠点」等を結び軸を新たに『日常生活における活動軸』として追加（位置づけ等については記載なし）						
	○拠点を『生活利便型拠点』（市民の日常生活において必要とされる都市機能を有する拠点）と『政策誘導型拠点』（既存施設の集積を維持・増進し、政策的に拠点形成を行う拠点）に区分 ○「新大村駅周辺地区」を大村駅周辺地区とともに『都市拠点』として追加 ○『地域拠点（北部地域・南部地域）』、『コミュニティ拠点』を追加 ○「車両基地周辺地区」を『地域拠点』として追加 ○『自然・レクリエーション拠点』『交通結節点』『産業拠点』は都市計画マスタープランを踏襲							
拠点	<table border="1"> <thead> <tr> <th>拠点名称</th> <th>拠点形成の方針</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>都市拠点 (地域拠点)</td> <td> <b>新大村駅周辺地区 ※追加</b> 新幹線新駅の設置によって広域的な交流人口の増加が見込まれるため、駅周辺における都市機能や交流機能の充実を図り、本市の新たな都市拠点の形成を図る。  <b>大村駅周辺地区</b> 既存の都市機能や公共施設の集積を活かし、本市の中心市街地に相応しい賑わいと活力のある拠点の形成を図る。                 </td> </tr> <tr> <td>地域拠点</td> <td> <b>車両基地周辺地区 ※追加</b> 九州新幹線の整備に関連する車両基地の設置に伴い、在来線新駅の設置が予定されているため、在来線新駅の周辺において、既存の教育施設の集積状況や車両基地関連企業の立地を想定し、北部地域を担う拠点の形成を図る。  <b>医療センター周辺地区 (医療拠点)</b> 南部地域住民の日常生活における生活サービス機能を充実させ、都市拠点との連携強化によって、南部地域を担う拠点の形成を図る。  <b>松原地区</b>  <b>竹松地区</b>  <b>西大村地区</b>                      駅を中心として地区住民の生活に必要な都市機能を有し、都市拠点や地域拠点との連携強化によって、各地区を担う拠点の形成を図る。                      ※将来都市構造図では「地区拠点」と呼称  <b>福重地区</b>  <b>萱瀬地区</b>  <b>鈴田地区</b>  <b>三浦地区</b>                      一定の人口集積が見られる地区や集落においては、公民館や集会所などにコミュニティ拠点を形成し、地区拠点や地域拠点を結ぶ交通連携の確保に努める。  <b>公益拠点 (市民病院周辺)</b>                      公共公益施設の集積を活かし、既存都市施設の維持を図るとともに、新たな公益機能の強化を進める。  <b>医療拠点 (医療センター周辺)</b>                      既存の長崎医療センター及び活水女子大等の高等教育機関の集積を活かし、医療機能の維持・強化を図る。                      なお、医療センター周辺は、南部地域の地域拠点としての役割も併せて担う。                 </td> </tr> </tbody> </table>		拠点名称	拠点形成の方針	都市拠点 (地域拠点)	<b>新大村駅周辺地区 ※追加</b> 新幹線新駅の設置によって広域的な交流人口の増加が見込まれるため、駅周辺における都市機能や交流機能の充実を図り、本市の新たな都市拠点の形成を図る。 <b>大村駅周辺地区</b> 既存の都市機能や公共施設の集積を活かし、本市の中心市街地に相応しい賑わいと活力のある拠点の形成を図る。	地域拠点	<b>車両基地周辺地区 ※追加</b> 九州新幹線の整備に関連する車両基地の設置に伴い、在来線新駅の設置が予定されているため、在来線新駅の周辺において、既存の教育施設の集積状況や車両基地関連企業の立地を想定し、北部地域を担う拠点の形成を図る。 <b>医療センター周辺地区 (医療拠点)</b> 南部地域住民の日常生活における生活サービス機能を充実させ、都市拠点との連携強化によって、南部地域を担う拠点の形成を図る。 <b>松原地区</b> <b>竹松地区</b> <b>西大村地区</b> 駅を中心として地区住民の生活に必要な都市機能を有し、都市拠点や地域拠点との連携強化によって、各地区を担う拠点の形成を図る。 ※将来都市構造図では「地区拠点」と呼称 <b>福重地区</b> <b>萱瀬地区</b> <b>鈴田地区</b> <b>三浦地区</b> 一定の人口集積が見られる地区や集落においては、公民館や集会所などにコミュニティ拠点を形成し、地区拠点や地域拠点を結ぶ交通連携の確保に努める。 <b>公益拠点 (市民病院周辺)</b> 公共公益施設の集積を活かし、既存都市施設の維持を図るとともに、新たな公益機能の強化を進める。 <b>医療拠点 (医療センター周辺)</b> 既存の長崎医療センター及び活水女子大等の高等教育機関の集積を活かし、医療機能の維持・強化を図る。 なお、医療センター周辺は、南部地域の地域拠点としての役割も併せて担う。
	拠点名称	拠点形成の方針						
	都市拠点 (地域拠点)	<b>新大村駅周辺地区 ※追加</b> 新幹線新駅の設置によって広域的な交流人口の増加が見込まれるため、駅周辺における都市機能や交流機能の充実を図り、本市の新たな都市拠点の形成を図る。 <b>大村駅周辺地区</b> 既存の都市機能や公共施設の集積を活かし、本市の中心市街地に相応しい賑わいと活力のある拠点の形成を図る。						
	地域拠点	<b>車両基地周辺地区 ※追加</b> 九州新幹線の整備に関連する車両基地の設置に伴い、在来線新駅の設置が予定されているため、在来線新駅の周辺において、既存の教育施設の集積状況や車両基地関連企業の立地を想定し、北部地域を担う拠点の形成を図る。 <b>医療センター周辺地区 (医療拠点)</b> 南部地域住民の日常生活における生活サービス機能を充実させ、都市拠点との連携強化によって、南部地域を担う拠点の形成を図る。 <b>松原地区</b> <b>竹松地区</b> <b>西大村地区</b> 駅を中心として地区住民の生活に必要な都市機能を有し、都市拠点や地域拠点との連携強化によって、各地区を担う拠点の形成を図る。 ※将来都市構造図では「地区拠点」と呼称 <b>福重地区</b> <b>萱瀬地区</b> <b>鈴田地区</b> <b>三浦地区</b> 一定の人口集積が見られる地区や集落においては、公民館や集会所などにコミュニティ拠点を形成し、地区拠点や地域拠点を結ぶ交通連携の確保に努める。 <b>公益拠点 (市民病院周辺)</b> 公共公益施設の集積を活かし、既存都市施設の維持を図るとともに、新たな公益機能の強化を進める。 <b>医療拠点 (医療センター周辺)</b> 既存の長崎医療センター及び活水女子大等の高等教育機関の集積を活かし、医療機能の維持・強化を図る。 なお、医療センター周辺は、南部地域の地域拠点としての役割も併せて担う。						

■都市計画マスタープラン（平成24年3月）



凡 例

ゾーン	都市ゾーン	
	田園住宅ゾーン	
	森林ゾーン	
	海辺ゾーン	
軸	都市軸	
	都市中心拠点	
拠点	地域生活拠点	
	公益拠点	
	自然・レクリエーション拠点	
	交通結節拠点	
	産業拠点	

凡 例

幹線道路網・県道	
九州新幹線西九州ルート（長崎ルート）	
JR大村線	
長崎自動車道	
河川	
行政界	
都市計画区域界	

■立地適正化計画（平成29年3月）



将来都市構造変更点

都市計画マスタープラン	立地適正化計画
(都市中心拠点) 大村駅周辺地区	(都市拠点) 新大村駅周辺地区／大村駅周辺地区
(地域生活拠点) 松原駅周辺／竹松駅周辺／ 諏訪駅周辺／岩松駅周辺／ 萱瀬出張所周辺／ 三浦出張所周辺	(地域拠点) 車両基地周辺地区／ 医療センター周辺地区  (地区拠点) 松原地区／竹松地区／西大村地区／ 福重地区／萱瀬地区／鈴田地区／ 三浦地区
(公益拠点) 市民病院周辺／ 医療センター周辺	(公益拠点) 市民病院周辺  (医療拠点) 医療センター周辺

凡 例

ゾーン	都市ゾーン		
	田園住宅ゾーン		
	森林ゾーン		
	海辺ゾーン		
	拠点	都市拠点	
		公益拠点	
		医療拠点	
		地域拠点	
		地区拠点	
	軸	コミュニティ拠点	
自然・レクリエーション拠点			
交通結節拠点			
産業拠点			
都市軸			
日常生活における活動軸			
幹線道路網・県道			
九州新幹線西九州ルート（長崎ルート）			
JR大村線			
長崎自動車道			
河川			
行政界			
都市計画区域界			

※「拠点」の呼称に一部不整合あり。

【将来都市構造見直しの考え方】

見直しの視点

- 「将来都市構造」は大村市の将来の都市像を空間的・概念的に示すものであることから、分かりやすく表現する必要がある。（日常生活における活動軸、コミュニティ拠点までは表示しない）
- 将来の都市像を示すものであることを考えると、「現状」の拠点と、「政策的に形成する」拠点とを区分する必要性は低い。
- 拠点や軸については、それぞれが担う役割のレベルに応じて区分し、分かりやすく表現することが望ましい。

ゾーン

- 人口は増加傾向で推移しているものの、今後は横ばい・減少傾向に転じる見込みとなっていることから、都市的土地利用の拡大の必要性は低い。
- コンパクトな市街地形成の観点からも都市的土地利用の拡大（拡散）は妥当ではないことから、現計画の踏襲を基本とする。

拠点

- 市域全体の生活・産業や広域的な交流を支える「都市レベル」の拠点を『都市拠点』、周辺地域の生活を支える「地域レベル」の拠点を『地域拠点』、各地区の生活を支える「地区レベル」の拠点を『地区拠点』として3つの区分で再整理する。
- 生活利便型拠点・政策誘導型拠点の区分はしない。
- 「公益拠点」のうち、市民病院周辺地区は『都市拠点』、医療センター周辺は『地域拠点』として再整理する。
- 「コミュニティ拠点」については都市全体の構造としては記載しない。
- 「自然・レクリエーション拠点」「交通結節点」「産業拠点」については、大きな変化は想定されないことから、現計画の踏襲を基本とする。

軸

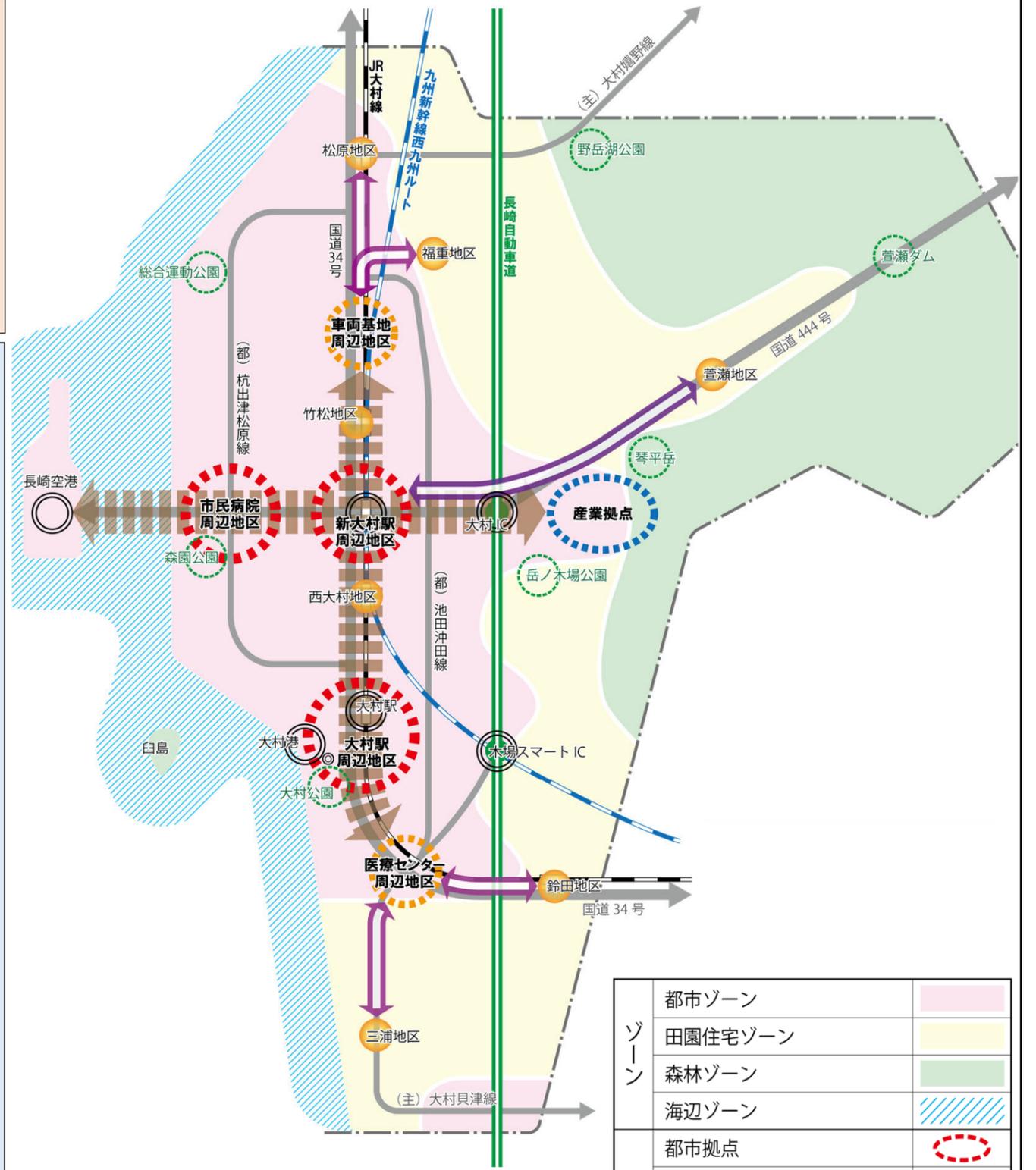
- 都市の骨格を形成し、「都市拠点」と「地域拠点」、「産業拠点」、主要な「交通結節点」を結びことで都市全体としての一体性を確保する軸を『都市骨格軸』として位置づけ・再整理する。
- 「地区拠点」と「都市拠点」「地域拠点」を結び軸を市民の日常生活を支える『地域連携軸』として位置づけ・再整理する。
- 「日常生活における活動軸」については都市全体の構造としては記載しない。



<b>都市ゾーン</b>	○都市ゾーン都市活動、都市生活の中心となるゾーン
<b>田園住宅ゾーン</b>	○みどり豊かな田園環境の形成を図るとともに、里山、農地など、自然環境と調和した住宅形成を図るゾーン
<b>森林ゾーン</b>	○主に森林の保全を図るゾーン
<b>海辺ゾーン</b>	○大村湾に面した海辺のゾーン

<b>都市拠点</b>	○住む人、訪れる人の賑わいや交流の創出、文化の発信など大村市の中心地としての役割 ○産業、行政、医療、教育機能など、多様なサービスを提供する都市生活の中心的な役割 ○3地区が役割分担・連携し、一体となって市民の生活や経済活動等を支える役割 ※新大村駅周辺地区、大村駅周辺地区、市民病院周辺地区
<b>地域拠点</b>	○周辺地域の生活を支え、地域間格差を是正する役割 ※車両基地周辺地区、医療センター周辺地区
<b>地区拠点</b>	○地域の身近な生活支援、サービスを提供する役割 ※鉄道駅・出張所周辺
<b>産業拠点</b>	○大村市の雇用、産業機能を創出する役割 ○県央の産業拠点として、産官学の連携を促進し、ハイテク産業の集積や研究機関の誘致を図るなど、産業の振興を牽引する役割 ※オフィスパーク大村、大村ハイテクパーク、第2大村ハイテクパーク
<b>自然・レクリエーション拠点</b>	○市民および訪れる人の健康増進やスポーツ振興などを提供する役割 ○自然とのふれあいや都市のうるおいを生み出す役割 ※大村公園、森園公園、総合運動公園等
<b>交通結節拠点</b>	○ひと、もの、情報の交流や連携を高める役割 ○国際交流、都市間交流を促進し、都市活力を創出する役割 ※空港、主要鉄道駅、高速道路IC、港湾

【将来都市構造（見直し案）】



<b>都市骨格軸</b>	○都市を形成する骨格となる軸 ○大村市の中心的な拠点（都市拠点・地域拠点・産業拠点）を結び、都市の一体性を確保する役割 ○充実した高速交通体系を結び、その機能を高める役割
<b>地域連携軸</b>	○「都市拠点」「地域拠点」と「地区拠点」を結び、市民の日常生活を支える役割

ゾーン	都市ゾーン	
	田園住宅ゾーン	
	森林ゾーン	
	海辺ゾーン	
拠点	都市拠点	
	地域拠点	
	地区拠点	
	産業拠点	
	自然・レクリエーション拠点	
軸	都市骨格軸	
	地域連携軸	